

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	山嶽部々報
Author(s)	
Citation	龍南, 197: 107-110
Issue date	1926-02
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8848
Right	

山嶽部々報

祖母山行

斑貝 松尾 清次
田村 勝朗
綾部 正

五月十日朝雨であつたが田村君や綾部君の元氣にひきづられて出發。午前十時頃には晴れ上つた。午後一時近く宮地着。高森往還を少し歩いてから左に外れて行く。雨の後なので四方の山がはつきり見える。併し久住や祖母等の高山は見えなかつた。根子岳の麓を廻つてゐる間に何時の間にか路を間違へてゐる。岐路の多い路であつちで聞いたりこつちで聞いたりして漸くもとの路に出る。波野原が奇麗に見えてゐたが東から非常な勢で来る霧のために何時しか見えず自分の姿も包れてしまつた。霧の中であつてもなく歩く。

あれやこれやと霧中に迷ふ小路かな。

霧と雨を憂きものに思ふ山の旅。
霧の中をどうやらこうやら峰の宿に出た。此處がら都留まではりつはな街道。併しも薄暗い。空いた腹かゝへて九時漸く都留に到着。小學校に宿めて戴く。

ゐるりの火を頼みに思ふ今宵かな。

五月十一日。起きて見れば晴だ。喜んで出發の用意。五月といふに今漸く櫻が散り初めて校庭は奇麗だ。七時出發。八時半五ヶ所到着。小學校に寄つて荷物を置き飯盒だけ持つて祖母山に向ふ。大きな路のある間は何でもなかつたが地圖には尾根を通る路が谷間を行つてゐる。けれども里人の言によると大丈夫との事に行く。二ツ三ツ谷を渡る頃には路が新しい爲か切笹ばかりだ。

迷ひ路に切り笹もあ辛さかな。

水のある間にと晝食。やがて急な登りを登りつめると岩の處に出た。しばらくにして風穴に來た。水があつた。もう頂上までは

近いと勇みたつ。横を見ると地圖に表てゐる尾根にりつはな路が見えた。頂上に三時到着。少しかすんでゐるが聞いた通り大きな眺めだ。久住が如何にも大きく見える。

あれ阿蘇がと指さす友の笑顔かな。

歸りは尾根のりつはな道をかける様にして下つた。五ヶ所の小學校には四時頃歸着。夕飯を戴いて出發。低い峠を越へるともう河内に近い。

薄暗れの峠路さびし春の暮

夕やみに峠路白く光りぎり。

河内では又小學校に宿を願つた。町の活動の音が聞えて賑やかだつた。

五月十二日朝七時河内發九時半三田井に着いた。聞くと延岡まで十五里あるといふので自動車に乗る。自動車屋の傍の神殿とか云ふ五高の先輩の御家からわざわざ呼んで晝飯を御馳走して下された。此處の旅行で最も感謝すべき事柄である。三時延岡着解散。

第六班 秩父方面記

班員 松尾清次

谷基吉

七月廿一日 上野驛發。熊谷で乗換へ一時影森着。ブラ／＼と暑い日中を歩いて午後七時頃落合着。帝國電燈會社の小屋に泊めてもらつた。

七月廿二日 梓山まで行く積りで朝七時半出發。谷間の道は氣持がよかつた。併し足が遅い。十一時栃本着。道を違へて引返して山に入つたのが十二時過ぎてゐた。道はほい尾根を傳つてゐるので水がない。併し木が多いので眺はあまりになかつたけれど樂だつた。三時頃になつて霧がやつて來た。何時迄歩いても十文字峠に來ない。五時過ぎ白泰山の下を通つた。あゝもう峠に出る時は暗くなるなあとと思つて歩いてゐると不安でならない。七時すぎ大きな岩下に水を見出したのですぐに露營と決定。飯の出來た頃から霧の中に雨が混つて來た。夜

半になつて風さへ猛烈になつて暴風雨となりテントに猛烈に吹きつけるので不安でななかつた。

七月廿三日、今朝もまだ雨も風も強い。併し此處に居ることは出來ないので荷物をまとめて九時半出發。テントが重い。雨と風の中を十文字峠が何處とも知らぬ間に通過して下りにかかつた時に雨も漸く止んだ様だつた。下るにしたがつて天候はよくなる模様。下り終つた時には雲間から日光さへもれて來た。梓川の岸に來て見ると水は黄色になつて物凄く流れてゐる。小屋があつた、もう梓山も近いのでゆつくりする。八丁ヶ原、戰場ヶ原のりつげな様子に驚きながら午後一時四十分頃梓山着。偶然に飛び込んだ青年會場に泊めて戴く。皆全身濡れてゐてルツクサツクの中さへも乾いた處はなかつた。四時からまた天候が悪くなつて明日のことを心配する。甲武信岳までの路も心配なので夜案内者を雇ひに行つた

好人を得て幸だつた。

七月廿四日。朝四時に起きては見たがやつぱり雨、九時になつても止まないので斷念する。午後になつて晴れだったので十文字峠の下の小屋まで行くことにして案内者にそこまで明朝來てもらふことにして四時四十分梓山に別れをつげた。梓山？ほんとに好ましい山里。温泉はなくともほんとによい處だつた。小屋の中の夢は樂しかつた殊に星の出が多かつたので。

七月二十五日朝四時に起きて支度する。七時に案内者が來たので出發。路はなかなか／＼難路。河原に入つて行くと連日の雨で泥が流されてゐるのでどう行くのか案内のものには全然わからなかつた。二三度川を涉つてから全く森林の中ばかりになつた九時甲武信岳下の小屋に着く。ここからは急な登りをひたのぼりに登つて三寶岳につづく。苦しい事一通りではない。併しまだ木があるので日光が射しこまないで比

較的樂だ。十一時すぎ漸く頂上の一等三角點に到着。頂上は廣い。標高二四八三メートル。周圍の景色もりつげだ。殊によく晴れてゐたので南は富士を始め破風山雁坂山甲武信岳、國師岳、金峯山、奥千丈岳、南アルプス等西は北アルプス、八ヶ岳連峰、北の方に妙義山及び奥上州の連山東に、武甲山、三峰山電取山等大浪小浪がうねつてゐた。その間に秩父町がのぞかれたのもなつかしかつた。ここで晝飯をすませて十一時半頃甲武信に向ふ。近いとは思つたがかなりかかつた。森林の中を歩いてゐると急によい道に出逢はす。股ノ澤の林道であるもう甲武信の頂上は近い。十二時には甲武信の頂上に立つた。標高約二四七〇米。長い間あこがれてゐたこの頂上。何とも云へぬ心持だつた。此處から三寶岳を見ると如何にも大きな山である。甲武信の頂上は狭がつた。小憩の後案内者は國師岳への道を示して梓つた。彼の名は鷹野戸一郎。親切

な老案内者である。國師への道は國境の切分けを通つて行く。歩きづらい。嫌といふ程下つたり上つたりして歩く。時々小さな峰の中に出ると切り開かれてあつて南方がよく見えた。甲武信の方を見ると三寶、甲武信、木賊、の三山が並んでゐるのか非常な壯觀だ。國師の方には奥千丈岳が如何にも大きく立つてゐてその後にはもく／＼とした白雲がもり上つてゐる。二時三時となるにしたがつて今迄晴れてゐた空が曇り出した。五時頃テントする地を探しながら歩いてゐたかまた國師岳に來ない。その間に雨が降り出した。尾根では水を見出すことはどうしても出来なかつたので國師まで行かなければ小屋の位置がよく判じないのだ。道はないが木が切つてあるのが頼みだ。心配になる程下つた時漸く一條の路に出た。谷に下り切ると小屋があつた。正しく國師下の小屋である。もう六時すぎだ。

急いで夕飯の支度をする。雨はふりしきつてゐる。九時頃外に出てみると雨が止んで星が一面に出てゐた。安心してテントをかぶつてゐた。今宵は暖かだつた。

七月廿六日 五時起床。六時四十分出發。國師登りの路は山腹までで途中からなくなつてゐる。その途中からの途が如何にもひどい。倒木の中ばかり歩かせられたのにはすつかり參つてしまつた。上の方に木の間がすき透つて見えただけでそこを目當てに登る。來て見ると今度は國師下の鞍部であつた。國師頂上に九時四十分到着。標高二五九一米の高地ではあるがはい松が見られなかつた。天氣はよいし皆元氣なので氣持がよい。甲武信の方には少し雲があつた。富士は見えなかつた。南北アルプスもだめ。ただ奥千丈岳と金峰山朝日岳が大きな波を空中に打たせてゐる。朝日岳の方に少し下つてそこに荷物をおいて奥千丈岳に行く、奥千丈岳は秩父第一の高山標高二六〇〇米

頂上は廣かつた。大な岩があちこちにごろ／＼してゐてその間にはひ松があるのが如何にも高山らしくて氣持がよかつた。急いで奥千丈岳を下つて朝日岳に向ふ。尾根路は相變らず木が茂つてゐるので樂だ。嫌になる程下つた時に一寸平らな處があつてそこにはテントを張つた形跡があつた。朝日岳の頂上は割に近かつた。午後〇時五十分頂上に立つたがひ松は見られなかつた。此處は二五八一米の高處である。眺望も木が多くてだめ。金峰山の方だけはよく見えた。しばらく休んで出かける。割合に樂な路であるしばらく歩くといよ／＼金峰山にかゝる。最後の山だと思つて勇氣を更に出して行く。三十分許り登るさもうはひ松帯になる。はひ松帯をしげらく歩いて抜けると岩石が磊々としてゐる。もう頂上なのだ時に二時二十分。岩の上に登つて萬ざいの叫ぶ。北西の方には瑞橋山が根子岳よりもまだ素晴らしい岩の集りを見せてゐる谷君

と思はず嘆聲をもらした。南側からは霧が押寄せてくるので何も見えない。ぐず／＼してゐる間に三時になつたのでいよ／＼盡きぬ名残を惜しみながら出かける。甲州側への下り道は急な石ころの間を通つてゐた歩き難く下り難い。一里半を下るのに二時間もかかつた。金櫻神社の奥殿まで下るとあとはもう樂だつた。併し六時頃になると又夕立がやつて來たのでかたです。六時四十分上黒平の宿屋についた此の夜はゆつくり身体が休められた。

七月廿七日今日は甲府まで歩けばよいので七時起床。暑い日光を受けてりつばな道を呑氣に歩きながら金櫻神社の下で晝飯。それから御岳新道を大きな荷物を背負つてその風色を賞しながら天神平から和田峠を抜けて六時甲府着夕食後散歩して十一時の汽車で出發

七月廿八日朝六時新宿驛着解散。

